



総務省政策統括官(統計基準担当)付
統計企画管理官付統計企画管理官補佐

工藤 文武

Fumitake KUDO

平成 21年 4月 総務省採用
同 行政評価局政策評価官付
平成 22年 7月 内閣官房行政改革推進室
平成 24年 7月 同 行政管理局主査
平成 26年 5月 併任 内閣官房内閣人事局主査
平成 26年 8月 総務省情報流通行政局放送政策課主査
平成 27年 12月 同 情報流通行政局情報流通振興課課長補佐
平成 28年 6月 同 行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室専門官
平成 29年 11月 同 行政評価局政策評価課課長補佐
平成 30年 4月 現職

この国をよりよくする 仕組みづくり

■ 行政のための統計から社会の情報基盤としての統計へ

古来、為政者は、徴税や徴兵のために、人口や農産物などの実情を正確に把握する必要がありました。ローマ帝国では、初代皇帝アウグストゥスの治世の頃に人口や土地を調べる調査(Census)が行われましたが、こうした統計の作成が「統計」の始まりと言われています。このように、「統計」は国の行政的な需要に端を発し、これと密接に結びついて発展してきました。

我が国においても、統計は行政の基盤として利用されています。例えば、各府省の政策立案や評価の際に行われる政策目標の決定や政策効果の検証に統計が利用されています。また、地方自治法において、「市」の要件とされる人口は、「国勢調査の結果」によると規定されるなど、統計は行政の基準・要件としても利用されています。

さらに、近年の情報通信技術の飛躍的な発展に伴い、行政のみならず、民間の研究者や企業が容易に統計データを利用・編集・加工できるような環境の整備が進められており、かつての行政のための統計から社会の情報基盤としての統計へと大きな転換が図られています。

■ 我が国の統計と総務省の役割

社会の情報基盤である統計がどのように作成されるかご存じでしょうか。我が国では、各府省がその所管行政に必要な統計を作成する仕組み(分散型統計機構)を採用しており、各府省がそれぞれ統計調査を実施するなどして統計を作成しています。

この仕組みの下では、各行政分野のニーズに即した統計の作成を期待できる一方、統計相互間の整合性の確保や重複の排除、統計行政全体の発達・改善を遂行する役割が重要となります。

この役割を担うのが「統計法」を所管する総務省です。私が現在担当している統計法の改正作業では、統計データの利活用を促進するための仕組みづくりを行っていますが、総務省では、このほか公的統計基本計画の立案、各府省の統計調査の審査、地方公共団体の支援などを行い、統計の「作成」「利用」双方の視点から、統計行政を推進しています。

■ この国をよりよくするために

これまで私は、政策評価、行政改革、行政機関の管理といった仕事に携わってきました。そのいずれにおいても、この国をよりよくするため、各府省の行政を対象に、必要性、有効性、効率性の観点から議論を尽くしながら、各府省の行政を支える仕組みづくりや環境整備を行ってきました。こうした役割は、分散型統計機構を採用する我が国の統計行政においても極めて重要だと実感しています。

社会の基盤である統計行政に、ひいては我が国の行政全体のマネジメントに熱意のある方と一緒に働くことができることを楽しみにしています。



■ 大きな組織、大きな目標

部活動で個人戦より学校の名を背負った団体戦の方が実力を発揮できる、学祭の実行委員会で猛烈に頑張ることができる。皆さんの中には、このように多くの人を巻き込み活動する組織で、その一員として大きな組織目標の追求に携わること強いやりがいを感じる方がいるのではないのでしょうか。就職活動の際に自らがそのような人間であることを自覚した私も、働く人の数や業務の多様さ、伝統や歴史、各政策が世の中に与える影響の大きさ等の観点から、とてつもなく大きな組織である「行政」の潜在能力を引き出すこと、また、その過程で、一人ひとりの国家公務員のあり方や働き方という視点をあわせ持つことに魅力を覚え、総務省を志望し、入省以来、日々その思いの実現に取り組んでいます。

■ 目の前の仕事の先にあるもの

学校に通うことができた、家族が入院して治療を受けた、安心・安全な食事が当たり前だった、そもそも地域社会の治安が良かったと、これまでさまざまな行政サービスの提供を受けており、これらが一つでも欠けていけば「縦割り」ではない自分の人生

は不安なものであったらと想像します。

この点、総務省で行政の共通基盤を支える醍醐味は、業務が特定の行政分野にとられないことです。例えば、現在私が携わる業務では、政策評価の一態様である独法評価というマネジメントツールを通じて、各府省庁の独立行政法人の多様な専門性やノウハウが政府全体として発揮されることを目指しています。分野横断的に行政に携わり、専門家である各府省庁の政策を信頼し後押しすることで、これまでお世話になった人、これからお世話になる人、あるいは自分が直接には知り合うことがない将来世代など、この国に住む誰かのどこかの生活場面に何らかの形で関わり、それが良くなることに少しでも貢献したいと思っています。

■ 予感実感へ

学生時代に眺めていたこのパンフレットの写真の中の動かなかった先輩方に、その後部下として仕えたり、一緒に働いたりしたことを思うと、かつて目指した将来が現在の日常であることを実感します。

入省以来、省内外の多くの方々との関わりが、今の自分を形作ってくれました。行政官としての基本動作を叩き込んでくれた1年目の上司。20年後、50年後の日本の姿

を真剣に議論するため、省庁を超えて結集した内閣官房日本経済再生事務局で出会った皆さん。そして、現在所属する行政管理局の先輩、同僚……。総務省、あるいは霞ヶ関が、大きな組織だからこそ目指すことができる大きな目標を追い続けるなか、多様なバックグラウンドを持つ行政官同士の密な連携のなかで生まれる組織としてのダイナミックさが、今後一層求められると改めて思います。

そろそろ若手職員と名乗ることができる時期も終わりますが、初心を忘れることなく、これまでの出会いとこれからの出会いを大切にしていきたいと思っています。皆さんとも、いつかお会いできる日を楽しみにしています。



育児も頑張っています。休日は家族でお出かけです。



総務省行政管理局主査(独立行政法人評価担当)

山本 剛

Tsuyoshi YAMAMOTO

平成 26年 4月 総務省採用
同 行政評価局総務課
平成 27年 8月 内閣官房日本経済再生総合事務局
平成 29年 7月 現職

大きな組織が持つ潜在的な エネルギーに惹かれて